

偶成ぐうせい
(新島にいじま
襄じょう)

看山高巍巍 觀海闊洋洋
味得造化妙 小心少發揚

解説 自然の造形を見て感じたままを詠じた詩。

山やまを 看みれば 高たかきこと 巍ぎ々たり

語釈 ※巍巍 山の高いさまを形容する。※闊 雄大

なこと。※洋々 ゆったりと、のびのびとしているさ

ま。※造化 万物を作り出した自然界の理。

海うみを 觀みれば 闊ひろきこと 洋よう々たり

※妙 優れていること。※小心 小さいことにこだわる。※發揚 意気があがること。

味あじわい 得えたり 造ぞう化かの 妙みょうなるを

通釈 山を見れば、どこまでも高く、海を見れば広大

無辺で広々として限りがない。大自然のすばらしさを

心ゆくまで味わえば、人もまた、山のように高く、海

のように広々とした心をもつべきことに気づき、小さ

なことにこだわっていた私の心も、少しは活気を取り

もどし、大きくなったような気がしてくる。

小しょう心しん 少すこしく 発はつ揚ようす